

令和5年 9月1日

見附市議会議長 様

見附市議会議員 渡辺 美絵

一 般 質 問 通 告 書

下記のとおり質問したいので、会議規則第61条第2項の規定により通告します。

質問事項 (主題を記載してください。議場配布の一覧表に印刷)

【1】 見附市の人工透析患者の課題について

答弁を求める者 市長

1 令和4年9月議会で人工透析患者の環境整備について一般質問いたしました。令和5年度新年度予算では透析患者のデマンド型乗り合いタクシーが増便になりました。通院に関する見附の課題は人工透析患者の方だけではなく、他の疾病に関しても言えることというのは充分理解しております。しかし、通院の回数が多い人工透析に関しては特にまだ課題があると考えますので、1年経過し、再度現状確認と見附市のお考えを質問します。

(1) 見附市では独自に住民健診の検査項目として腎機能の低下を把握する検査項目を追加していますが、近年の検査結果や所見を伺います。

(2) 障がい者手帳の更新の際、通院に関しての手段、困りごとのアンケートを取っていただいていると思いますが、その結果はどのようなものだったか伺います。

(3) 1年前は見附市立病院における人工透析の実施環境の可能性について質問しました。アプローチの仕方を少し変えて、再度開業補助金の上乗せや医師にとっての見附市で暮らす魅力(例えば住宅施策まで踏み込む、ワークライフバランスの提案など)と透析環

※ 番号のつけ方 (大項目) 1 2 3 (中項目) (1) (2) (3) (小項目) アイ



境をどうしても整えたいというアピールをして、再度透析環境を見附市で整えることにチャレンジしてみることはお考えにはならないでしょうか。

- (4) 1年前の答弁では腎臓機能障害者のうち人工透析を受けている方106名中、60歳以上の方が全体の約8割を占めるとのことでした。人工透析を受けられる医療機関が見附市内に無いことにより市外まで週に数回通わなければならない現状と、高齢化、核家族化により家族送迎が困難になっていく状況について医療とは別の通院に関する負担として課題認識しており、福祉全体のなかで検討したいとの答弁でした。この点において、この1年で見附市としてどのような検討をされたのか伺います。また、通院補助としてのタクシー券の補助要件の変更についての議論はなされたか伺います。
- (5) これらを踏まえて見附市として透析環境を整える、通院体制を万全にする、そもそも人工透析にならないような取り組みに力を入れるこの3点が重要と考えますが市の見解を伺います。

質問事項 (主題を記載してください。議場配布の一覧表に印刷)

【2】 みつけ健幸の湯ほっとぴあの修繕の考え方について

答弁を求める者 市長

1 平成22年に第2次まちなか賑わい検討委員会の提言を受けて市が老朽化した老人いこいの家本町荘跡地に、まちなか賑わい創出の中核施設として整備された「みつけ健幸の湯ほっとぴあ」ですが、平成28年8月にオープンして、現在まで数字だけでは測れない地元への雇用創出や賑わい、災害時の安心感等を生み出している大切な施設であると考えます。当初、赤字になっても市は補填せず、黒字の場合は半額を市へ納付する。税金負担なしで運営でき、市への納付分を必要になるリニューアルにあてるとの説明でした。毎年ほっとぴあの収支について議員協議会の中で説明をいただいておりますが、毎年黒字か赤字か、修繕費はいくらたまったのかの質疑になります。しかしオープン当初からみて、物価高、ウッドショック、最低賃金の上昇、コロナなど世界情勢はかなり変化した中で7周年を迎えるにあたり、特に修繕費に関しての市の考え方が当初のままなのかどうか市長も代わった中で再度確認したいので以下質問します。

- (1) 現在も50万円を超える修繕か50万円以下かで本久と修繕負担をその都度検討して決めているようですが、現在まで見附市の一般会計からは総額いくら修繕費が支出されたか伺います。
- (2) 現在黒字分として市に収められた額はどの会計に分類されてどこにあるのか、基金化はしないのかなど扱いについて伺います。また、(1)で質問した修繕費は黒字分として納入された額を使って行っているという考えでよいのか伺います。

※ 番号のつけ方 (大項目) 1 2 3 (中項目) (1) (2) (3) (小項目) アイウ

- (3) 5月の協議会のときの話では大規模リニューアルはなるべくせずにやっていくとのことでした。今後する予定はあるかないかは今言えることではないかと思います。しかし、今は考えていないとしていつかするということになると、そのいつかが来たとき、黒字納入分が十分たまっていけばよいが、仮にたまっていなければ一般会計から出すことになるのか。それともお金がたまっていなければ絶対にリニューアルしないのか現在の考えを伺います。
- (4) 今後も毎年ほっとぴあの収支について報告をしていただく中で、修繕の考え方は平成28年のオープン当初のままいくということでしょうか。議員側としては赤字か黒字・修繕積立はいくらたまったかを争点にしていくだけでほっとぴあの議論をすることは市民の方々のためになるとは考えにくいのではないのでしょうか。再度執行部と議員側の考え方の共通認識が必要な時期にきていると考えますが見解をお聞かせください。

※ 番号のつけ方 (大項目) 1 2 3 (中項目) (1) (2) (3) (小項目) アイウ